

第6回かがわ「里海」づくり協議会を開催しました

日時： 平成26年7月14日（月） 14：00～16：00

場所： 香川県社会福祉総合センター 7階 第1中会議室

次第： 1. あいさつ 香川県環境森林部 部長 川田浩司

2. 議題

第1部 報告

(1) 平成26年度の取組状況について

香川県環境森林部環境管理課 課長補佐 大倉恵美

(2) さぬき瀬戸塾からの島での活動報告について

「瀬戸内海」の里海について 木場健一氏（男木島）

さぬき広島での取り組み 平井光子氏（広島）

(3) その他

第2部 グループ・ディスカッション

テーマ 里海づくり×島の活性化

第6回かがわ「里海」づくり協議会を開催しました。

第1部では、まず、事務局から平成26年度の取組状況について、かがわ「里海」づくりビジョンで示す6つのポイント（1. 推進体制の構築、2. 理念の共有・取り組みへの反映、3. 意識の醸成、4. 人材育成、5. ネットワーク化、6. データに基づく順応的管理）別に報告がありました。

その後、さぬき瀬戸塾から島での活動報告がありました。

「『瀬戸内海』の里海について」では、木場氏から、男木島での高齢化・過疎化の問題、昭和30年代からの瀬戸内海の様々な変化の問題、耕作放棄地の問題について話がありました。離島からの希望としては、島の復興のため、昔の豊かな海に近づけることにより、島の再生にも繋げていきたい、とのことでした。

また、「さぬき広島での取り組み」では、平井氏から、島案内人養成講座を開催するなど、これまで広島で取り組んできた活動について、お話がありました。島の活性化は、海の活性化になると考え、自分達の周りの海もきれいにしていけたらよい、それが里海づくりにつながっていくのではないかと、とのことでした。

第2部では、A～E班に分かれて、「里海づくり×島の活性化」をテーマに、論点を(1)歴史・文化の継承、(2)産業（収入源）の確保、(3)リーダーの育成のいずれか

を選択して、グループディスカッションを行ったあと、各班の発表を行いました。

最後に、アドバイザーの松田先生、井原先生、岡市先生から、次のとおりコメントをいただきました。

（松田先生） 島は、里山と里海が海岸線で直接つながっているので、「里海づくり」のモデルとして考えやすいのではないかと。島には、都会では無くなってしまった昔からのライフスタイルが残っており、その価値を再評価すべきである。また、瀬戸内国際芸術祭は、香川の島をアピールし、色々な新しい取り組みを行ったり移住者を増やしたりする良い機会である。

（井原先生） 島はスローな生活を提供できる。多くの人に、島で海の恵を感じられる暮らしを体験してほしい。「里海づくり」とおして「里海の暮らしづくり」を考え、また、「里海の暮らしづくり」とおして「里海づくり」を考えるというように、「里海づくり」と「里海暮らしづくり」は双方向にあるべきである。

（岡市先生） 現在は、例えば IT 産業に関わるような仕事をしながら、島で生活する時代であり、島の生活が、ただ農業と漁業を行うというものでは無くなってきている。また、リーダーの育成の点で、平井氏は、とてもうまくやっている。島の歴史・文化の継承については、それらがあつた上での現在のため、大切にしていきたい。

		
島での活動報告の様子	グループディスカッションの様子	ディスカッション後発表の様子

担当：環境管理課 水環境・里海グループ TEL：087-832-3220（内線 2865）